

■ 大阪がめざす副首都の姿の再定義

大阪が、平時の日本の成長、非常時の首都機能のバックアップを担う副首都として、『東西二極の一極、さらに、複数の都市が日本の成長をけん引する新たな国の形』を先導。

経済

- ◆ 駆動力となるのが、商いのまちとして育んできた「民都」の力。これを最大限生かして、西日本の中枢拠点（分都）として、アジアとの交流（アジアの主要都市）のなかでグローバルに経済成長。
- ◆ 今後の成長には、都市として、経済産業のイノベーション、構造転換に向けた「チャレンジの後押し（ビジネス環境等）」と、「暮らしやすさ、働きやすさ、楽しさ（ウェルビーイング、社会課題解決）」を兼ね備えることが必要。
- ◆ この理念のもと「変革を先取りし、誰もがワクワクする都市」として、「国内外の若者や女性をはじめ多くの人々の新たなチャレンジ」で成長を成し遂げ、東西二極の一極をめざす。こうした取組により、『経済的ポテンシャル』を向上。

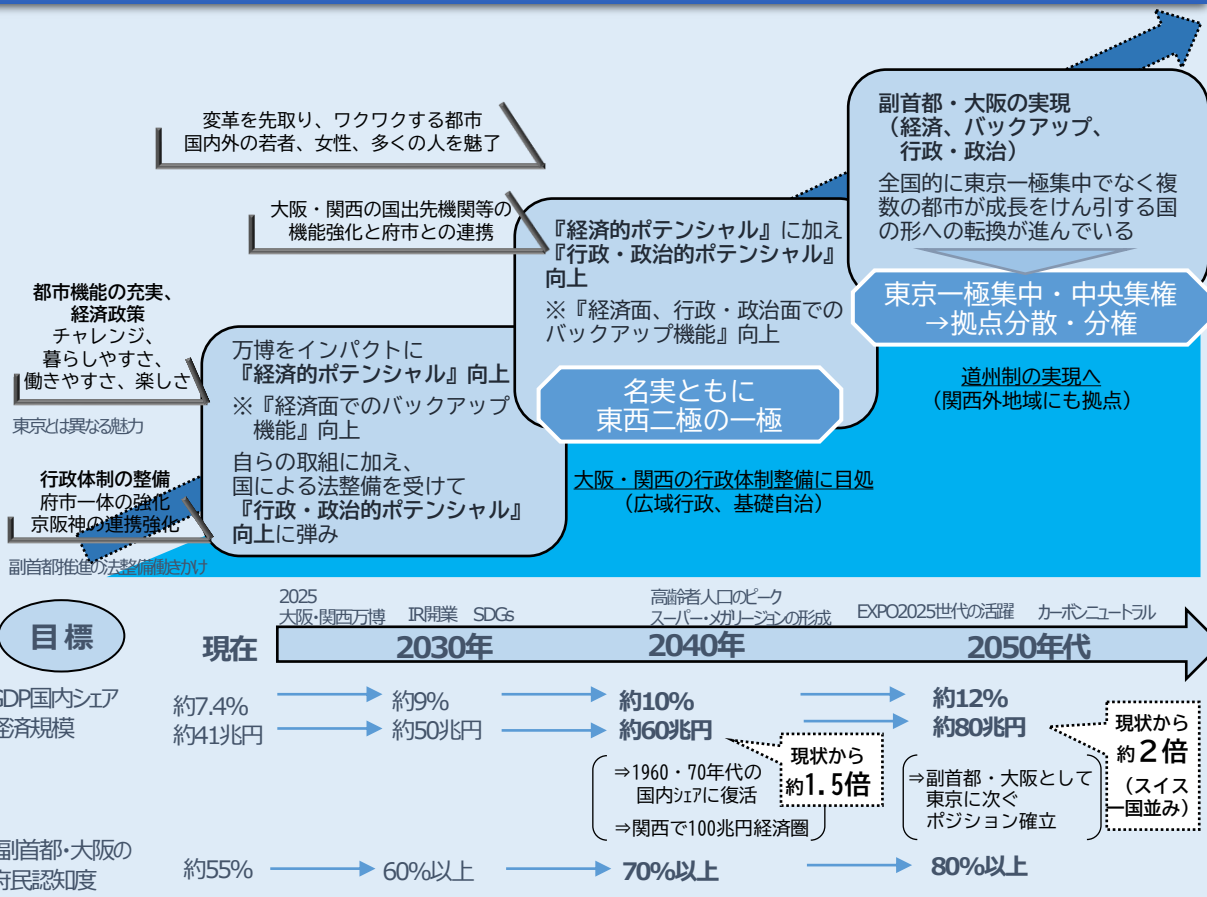
バックアップ

- ◆ 大阪自らの安全・危機管理機能の強化のうえに、さらに、経済力を背景に、経済面、行政・政治面でのバックアップ機能を強化し、非常時に日本を支える『バックアップ拠点（重都）』として、名実ともに広く国内外の信頼を得る。

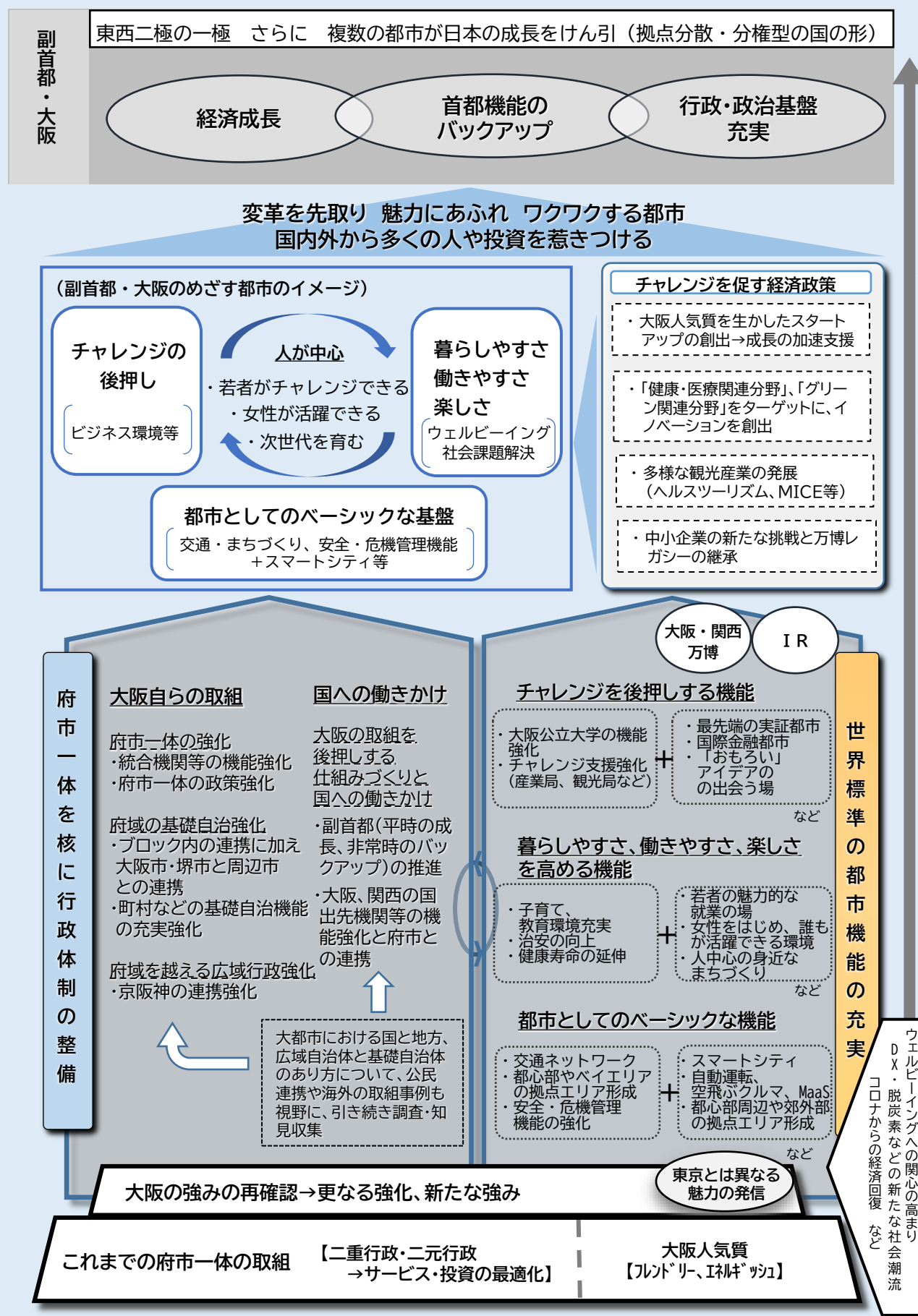
行政・政治

- ◆ 府市一体の強化と府域の基礎自治強化、将来の道州制を視野に入れた関西、とりわけ、一体の経済圏をなす京阪神の連携強化、さらには、大阪・関西の国出先機関等の機能強化と府市との連携等を進める。
- ◆ 副首都推進（平時の日本の成長、非常時の首都機能のバックアップ）のための法整備について検討を深め、国にその実現を迫る。
- ◆ あわせて、引き続き、大都市における国と地方、広域自治体と基礎自治体のあり方について、公民連携や海外の取組事例も視野に、調査・知見収集。こうした取組により、『行政・政治的ポテンシャル』を向上。

■ 目標と戦略・工程の再構築



■ 副首都・大阪実現への全体イメージ図



■ 今後の取組の方向性（世界標準の都市機能の充実）

チャレンジを後押しする機能

- 「最先端の実証都市」の確立（特区制度のフル活用）
- 大阪産業局、大阪観光局など
オール大阪でのチャレンジ支援強化
- 「おもろい」アイデアの出会い場
→スタートアップ、イノベーション
- 「チャレンジ、トライ&エラー」評価
人材育成環境の構築
- 国際金融都市の実現（リスクマネーの供給）
- 大阪公立大学
技術インキュベーション機能、
都市シンクタンク機能発揮
- ビジネス共通基盤の整備
ORDENの活用、人材育成、研究
- 人材マッチングシステム 成長分野へ人材流動

（最先端の実証都市の確立 イメージ図）



出典：大阪府・大阪市
「大阪版方博アクションプラン（2022年12月改訂版）」

（「おもろい」アイデアの出会い場 イメージ図）

【民間の取組事例：QUINTBRIDGE】

NTT西日本が運営。
企業・スタート
アップ・自治体・
大学などと共に、
「業界・地域課題の
解決」と「未来社会
の創造」をめざして
いる。



暮らしやすさ、働きやすさ、楽しさを高める機能

- 人を惹きつける魅力的な就業の場づくり
「チャレンジ、トライ&エラー」
- 子育て、教育環境の充実「次世代を育む」
- 人中心の身近なまちづくり
「ウォーカブルシティ」
- 先端国際医療（スーパーシティ）
- 大阪観光局を核に国際観光都市の実現
「クリエイティブシティ」
- 都市のみどりの充実
「みどりを感じる大都市・大阪」
- カーボンニュートラルの推進
その先の「カーボンネガティブ」へ
- 女性をはじめ、誰もが活躍できる
環境づくり「働きやすさ+働きがい」
- 外国人をはじめ多様な人々が安心して暮らせる
共生社会の実現「インクルーシブシティ」
- さらなる治安の向上
- 健康寿命の延伸「10歳若返り」

（クリエイティブシティ イメージ図）



御堂筋イルミネーション
出典：（公財）大阪観光局HP



百舌鳥・古市古墳群（仁徳天皇陵古墳）
出典：堺市HP

都市としてのベーシックな機能

- ミッシングリンクの解消
淀川左岸線、高速道路ネットワーク
- 関西国際空港 大阪港 空港・港湾機能の高度化
- 都心部周辺や郊外部の拠点エリア形成
- 自動運転 空飛ぶクルマ MaaS（スーパーシティ）
- スマートシティの実現 ORDENの実装
更なるデータ利活用
- 南北軸・空港アクセスの充実 なにわ筋線
鉄道インフラの整備
- うめきた2期 新大阪 夢洲・咲洲
都心部などの拠点エリア形成
- 水道 下水道 ごみ処理 生活インフラの最適化
- 消防 地震・津波対策 感染症対策
安全・危機管理機能の強化
- 民都・大阪

（うめきた2期 イメージ図）



うめきた2期完成予定イメージ（提供：うめきた事業者）

（ORDEN イメージ図）



■ 今後の取組の方向性（府市一体を核に行政体制の整備）

「大阪自らの取組」と「国への働きかけ」の両輪で、副首都（経済、バックアップ、行政・政治）の実現に向けて行政体制を整備していく。

大阪自らの取組

府市一体の強化

大阪・関西の中核となる府市一体が揺るぎないものになるよう

- 府市統合機関の機能強化
- 府市一体の政策強化

- 引き続き、総合区の検討

府域の基礎自治強化
府域を越える広域行政強化

中核市並みのサービスが提供できるよう

- ブロック内の連携に加え、大阪市・堺市と周辺市の連携
- 町村などの基礎自治機能の充実・強化

経済圏としての力を発揮できるよう

- 京阪神の連携強化

国への働きかけ

「大阪の取組を後押しする仕組みづくり」と国への働きかけ
●副首都（平時の成長、非常時のバックアップ）の推進 など

【イメージ】

考え方

- 副首都の実現に向けて、大阪の取組を効果的に後押し
- 副首都の位置づけだけではなく内実の獲得

視点

- 大阪の自律性や創意工夫が十分に生かされる仕組み（国は大阪を支える役割に徹する）
- 複数の都市（圏）が日本の成長をけん引する国の形への転換
- 対象地域、計画づくり、対象プロジェクト、支援メニューなどをパッケージで構成

首都機能バックアップの取組

大阪自らの安全・危機管理機能の強化のうえに、さらに、経済力を背景に、平時にも非常時にも日本を支える拠点となるべく、首都のバックアップ機能の向上を図る。

経済面の主な取組の方向性

首都圏企業に対する大阪での新たな拠点整備や既設拠点の機能強化、BCP上の代替拠点の位置づけを促進させるための働きかけ

既に大阪でバックアップ体制をとっている首都圏企業や国の指定公共機関等に対する、更なる経済基盤の充実・強化に向けた働きかけ

など

行政・政治面の主な取組の方向性

副首都化に向けた大阪自らの取組を後押しする仕組みづくりと国への法整備の働きかけ

政府業務継続計画など、既存の国土・防災・非常時に関する法律や計画等における、バックアップエリアとしての位置づけに向けた働きかけ

など

■ 今後の取組の方向性（チャレンジを促す経済政策）

- 大阪人気質（フレンドリー、エネルギー）を生かしたスタートアップの創出
- 健康・医療関連分野、グリーン関連分野をターゲットに、イノベーションを創出
- スタートアップ成長の加速支援
- ヘルスツーリズム、MICE 多様な観光産業の発展
- 中小企業の新たな挑戦と万博レガシーの継承

（ヘルスツーリズム、MICE 多様な観光産業 イメージ図） （スタートアップ成長の加速支援 イメージ図）



ミライのヘルスケア体験
出典：2025年日本国際博覧会大阪パビリオン推進委員会「大阪パビリオン出展基本計画」



OIH スタートアップアクセラレーションプログラム
出典：STARTUP ACCELERATION PROGRAM HP

今後の進め方

「副首都ビジョン」をオール大阪の指針として、大阪府、大阪市、堺市はもとより、府内の他の市町村や経済界、さらには、近隣府県、国とともに、一体となって、大阪の副首都化が推進されるよう、取り組んでいく。